旧日本軍の建築物と その設計についての研究

大阪公立大学大学院 工学研究科 白数夏生

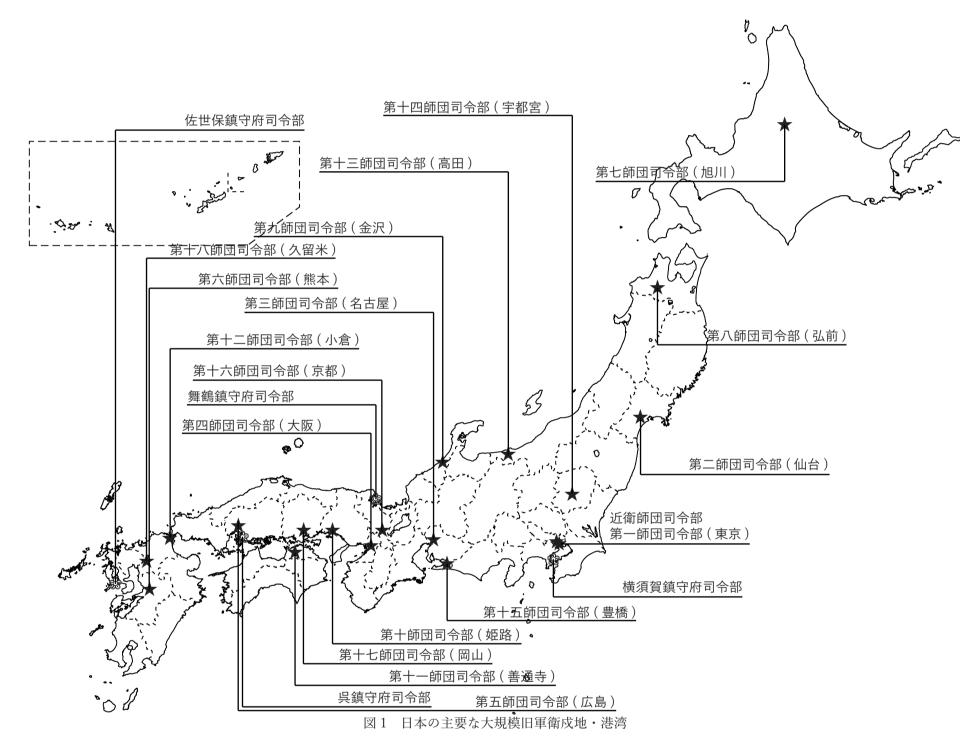
○はじめに

本研究は,かつて支配地であった大陸を含む日本中の主要都市に存在した旧日本軍の建築施設に注目し,建築史の視点から,その 設計や施設の展開手法の全体像を明らかにしようとするものである。

旧日本軍の建築物は,明治初期から昭和戦中期まで,全国の陸軍兵営や海軍港湾施設に配置される形で建設され,主要官庁の出先 国内主要都市の中心に存在し続けていた。それら施設では,広大な敷地に部隊の兵科に合わせて様々な機能の建築物 平時には国防体制の地域機関として,非常時には戦時体制下の兵站施設として,わが国近代化の過程に伴走し続けてい た。現存する旧軍施設が減少する中,それら施設に対し,全体数の把握と個々の現存事例を結び付けた包括的な研究が必要であると 考える。かつて国全体の国防方針や地域経済に大きな影響を及ぼしていた旧日本軍施設を研究することで,日本近代建築史,地域 史,防衛施設史等に,旧軍施設という新たな視点を提供したい。

○かつて日本中に存在していた旧日本軍の大規模施設

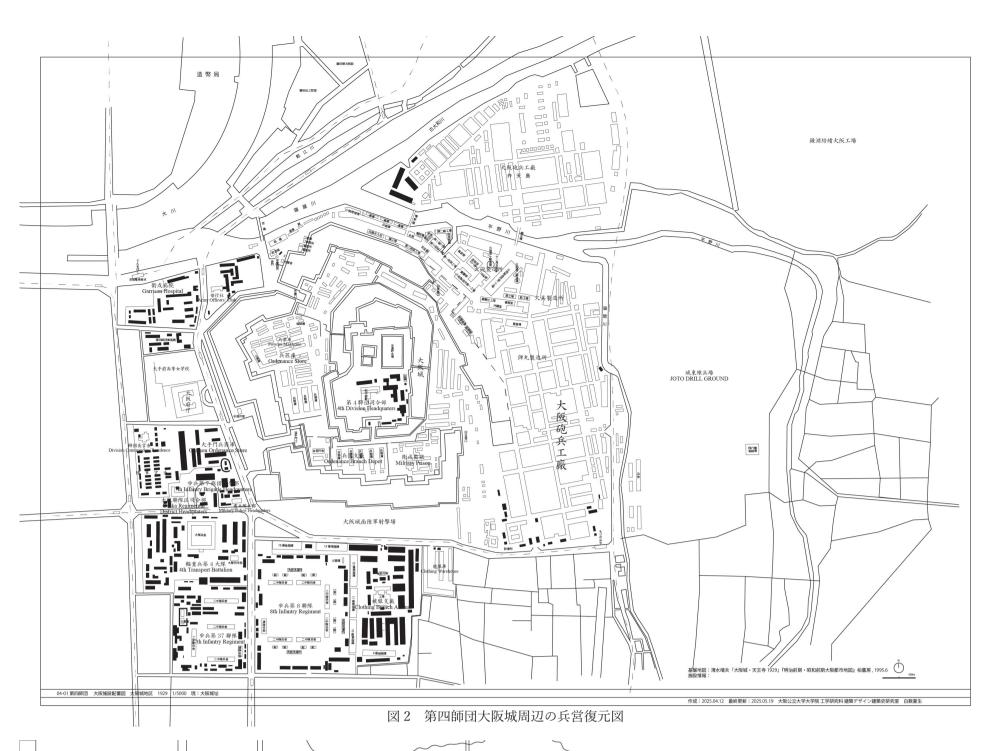
明治最初期から昭和戦中期まで,大陸も含むわが国の主要支配地域には,戦闘の実働組織としての軍隊が機能的に配置されてい た。明治4年に四鎮台の設置からスタートした陸軍の兵営は,当初明治新政府にる,西南戦争といった内紛の鎮定を目的とした配 備だった。ところが日清・日露戦といった対外戦争を経て支配域や在外邦人が増加する中で,鉄道網の整備と連動しつつ,国防と 部隊の大陸への即時展開が可能な師団制の兵営が建設されていった。一方の海軍では,初めに艦艇の建造・修理拠点としての造船 所の建設からその施設整備が始まり,対外戦争目前には敵艦の侵入が困難でありつつ,国土全体を防衛可能な要地に港湾が建設さ れていった。大正~昭和軍縮期直前の最大時には,師団司令部衛戍地(駐屯地)は20ヶ所,海軍鎮守府は4ヶ所に達した。

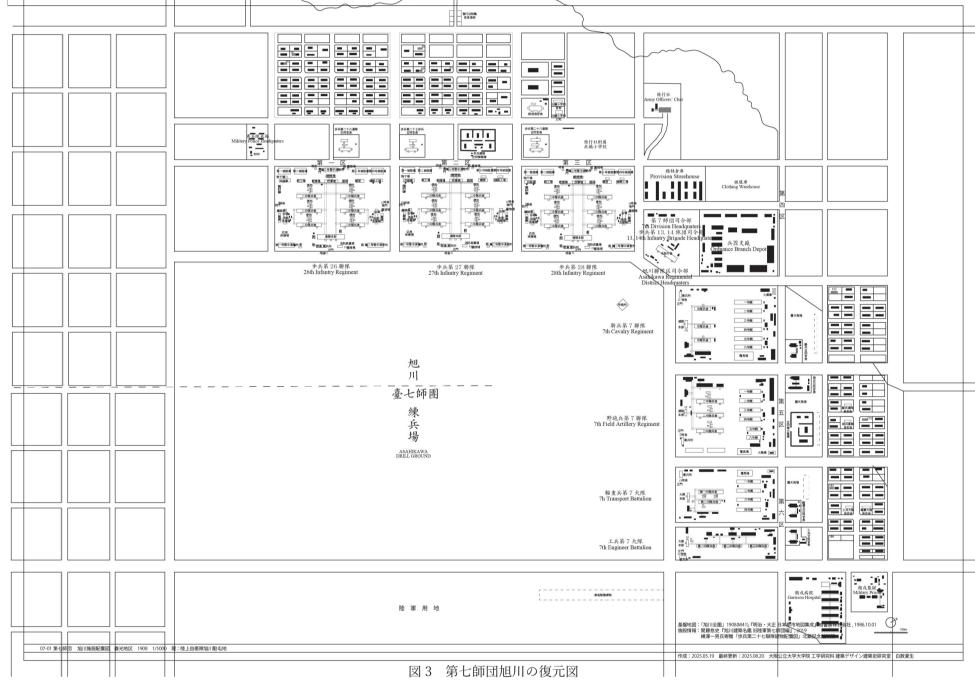


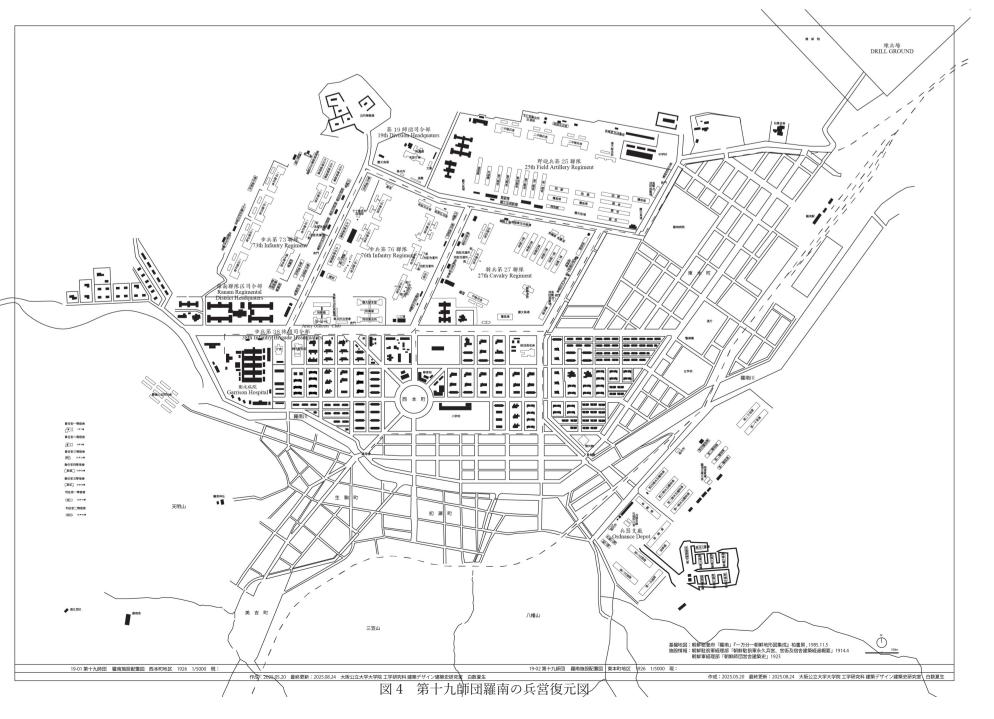
○主要陸軍部隊一覧

大压中即例	見							
師団			歩兵旅団	歩兵聯隊	騎兵聯隊	砲兵聯隊	工兵大隊	輜重大隊
近衛師団(東	京)	1,2	1,2,3,4	0	0	0	0
第一師団(東	京)	1,2	1,3,49,57 1,	13,14,15,16	1,13,14,15,16,	17,18 1	1
第 二師団(仙	台)	3,25	4,29,32,65	2	2大,山	2	2
第 三師団(名古	屋)	5,30	6,33,51,68	3	3	3	3
第 四師団(大	阪)	7,32	8,37,61,70	4	4	4	4
第 五師団(広	島)	9,21	11,22,42,71	5	5	5	5
第 六師団(熊	本)	11,36	13,23,36,64	6	6	6	6
第 七師団	他	Ш)	11,14	25,26,27,28	7	7	7	7
第 八師団(弘	前)	4,16	5,17,31,52	8,23,24	8	8	8
第 九師団(金	沢)	6,31	7,35,36,69	9	9	9	9
第十一師団(善通	善)	10,22	12,43,44,62	11	11	11	11
第十二師団(一人	倉)	12,35	14,24,47,72	12	12	12	12
第十三師団	高	田)	15,26	16,30,50,58	17	19	13	13
第十四師団(宇都	(宮)	27,28	2,15,59,66	18	20	14	14
第十五師団(豊	橋)	17,29	18,60,34,67	19,25,26	21	15	15
第十六師団(京	都)	18,19	9,19,38,53	20	22	16	16
第十七師団	(岡	山)	33,34	33,41,54,63	10	10	10	10
第十八師団(久留	(米	23,24	46,48,55,56	22	24, 山	18	18
第十九師団	(羅	南)	37,38	73,74,75,76	27	25	19	
第二十師団(龍	山)	39,40	77,78,79,80	28	26	20	
	新第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	新第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第第	 近衛師団(東 京) 第 一師団(東 京) 第 二師団(山 古屋) 第 三師団(大 反) 第 四師団(大 反) 第 五師団(北 月) 第 九師団(弘 前) 第 九師団(弘 前) 第 十二師団(金 所) 第十二師団(小高 居) 第十二師団(宇都 高) 第十十六師団(京 都) 第十十六師団(八八田) 第十十六師団(八八田) 第十十八師団(八八田) 第十八師団(太 本) 	近衛師団(東京) 1,2 第 一師団(東京) 1,2 第 二師団(仙台) 3,25 第 三師団(名古屋) 5,30 第 四師団(大阪) 7,32 第 五師団(広島) 9,21 第 六師団(熊本) 11,36 第 七師団(旭川) 11,14 第 八師団(弘前) 4,16 第 九師団(金沢) 6,31 第十一師団(善通寺) 10,22 第十二師団(小倉) 12,35 第十三師団(高田) 15,26 第十四師団(宇都宮) 27,28 第十五師団(京都) 18,19 第十大師団(南山) 33,34 第十七師団(八田) 33,34 第十八師団(八田) 33,34 第十八師団(八田) 33,34 第十八師団(八田) 33,34	近衛師団(東京) 1,2 1,2,3,4 第 一師団(東京) 1,2 1,3,49,57 1, 第 二師団(仙台) 3,25 4,29,32,65 第 三師団(名古屋) 5,30 6,33,51,68 第 四師団(大阪) 7,32 8,37,61,70 第 五師団(広島) 9,21 11,22,42,71 第 六師団(熊本) 11,36 13,23,36,64 第 七師団(旭川) 11,14 25,26,27,28 第 八師団(弘前) 4,16 5,17,31,52 第 九師団(金沢) 6,31 7,35,36,69 第十一師団(善通寺) 10,22 12,43,44,62 第十二師団(小倉) 12,35 14,24,47,72 第十三師団(高田) 15,26 16,30,50,58 第十四師団(宇都宮) 27,28 2,15,59,66 第十五師団(東都宮) 27,28 2,15,59,66 第十五師団(京都) 18,19 9,19,38,53 第十七師団(岡山) 33,34 33,41,54,63 第十八師団(八宮米) 23,24 46,48,55,56 第十九師団(双南) 37,38 73,74,75,76	近衛師団(東京) 1,2 1,2,3,4 ○ 第 一師団(東京) 1,2 1,3,49,57 1,13,14,15,16 第 二師団(仙台) 3,25 4,29,32,65 2 第 三師団(名古屋) 5,30 6,33,51,68 3 第 四師団(大阪) 7,32 8,37,61,70 4 第 五師団(広島) 9,21 11,22,42,71 5 第 六師団(熊本) 11,36 13,23,36,64 6 第 七師団(旭川) 11,14 25,26,27,28 7 第 八師団(弘前) 4,16 5,17,31,52 8,23,24 第 九師団(金沢) 6,31 7,35,36,69 9 第十一師団(善通寺) 10,22 12,43,44,62 11 第十二師団(小倉) 12,35 14,24,47,72 12 第十三師団(高田) 15,26 16,30,50,58 17 第十四師団(宇都宮) 27,28 2,15,59,66 18 第十五師団(京都) 18,19 9,19,38,53 20 第十七師団(岡山) 33,34 33,41,54,63 10 第十八師団(久留米) 23,24 46,48,55,56 22 第十九師団(双南) 37,38 73,74,75,76 27	近衞師団(東京) 1,2 1,2,3,4 ○ ○ ○ 第 一師団(東京) 1,2 1,3,49,57 1,13,14,15,16 1,13,14,15,16,第 二師団(山台) 3,25 4,29,32,65 2 2大,山第 三師団(名古屋) 5,30 6,33,51,68 3 3 3 第 四師団(大阪) 7,32 8,37,61,70 4 4 4 第 五師団(広島) 9,21 11,22,42,71 5 5 5 第 六師団(熊本) 11,36 13,23,36,64 6 6 6 第 七師団(旭川) 11,14 25,26,27,28 7 7 第 八師団(弘前) 4,16 5,17,31,52 8,23,24 8 第 九師団(金沢) 6,31 7,35,36,69 9 9 9 第十一師団(善通寺) 10,22 12,43,44,62 11 11 第十二師団(小倉) 12,35 14,24,47,72 12 12 第十三師団(高田) 15,26 16,30,50,58 17 19 第十四師団(宇都宮) 27,28 2,15,59,66 18 20 第十五師団(京都) 18,19 9,19,38,53 20 22 第十七師団(周山) 33,34 33,41,54,63 10 10 第十八師団(久留米) 23,24 46,48,55,56 22 24,山第十九師団(欠留南) 37,38 73,74,75,76 27 25	近衛師団(東京) 1,2 1,2,3,4 ○ ○ ○ ○ 第 一師団(東京) 1,2 1,3,49,57 1,13,14,15,16 1,13,14,15,16,17,18 1 第 二師団(仙台) 3,25 4,29,32,65 2 2大,山 2 第 三師団(名古屋) 5,30 6,33,51,68 3 3 3 3 第 四師団(大阪) 7,32 8,37,61,70 4 4 4 4 第 五師団(広島) 9,21 11,22,42,71 5 5 5 5 第 六師団(熊本) 11,36 13,23,36,64 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6 6

※部隊配置は1915年時点のもの。重砲兵隊、軍楽隊、鉄道聯隊、電信大隊、気球隊を除く。 ※このほか、要地には対馬守備隊、沖縄守備隊、樺太守備隊、台湾守備隊、満州独立守備隊、南洋防備隊(海軍)などが置かれた。







○各地の兵営跡に残された建築物







図 5 第九師団司令部庁舎(金沢)

図 6 第十一師団司令部庁舎 (善通寺)





図7 歩兵第六旅団司令部庁舎(金沢)

図8 歩兵第十九旅団司令部庁舎(京都)





図 9 歩兵第四聯隊兵舎(仙台)

図 10 歩兵第十六聯隊兵舎(新発田)

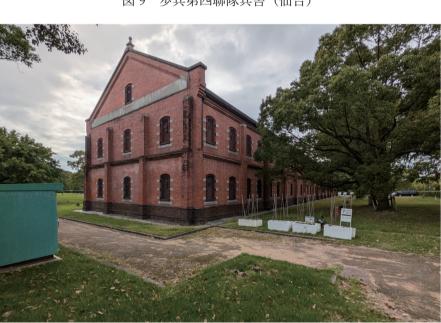




図 11 姫路陸軍兵器支廠兵器庫(姫路)

図 12 旭川陸軍兵器支廠兵器庫(旭川)

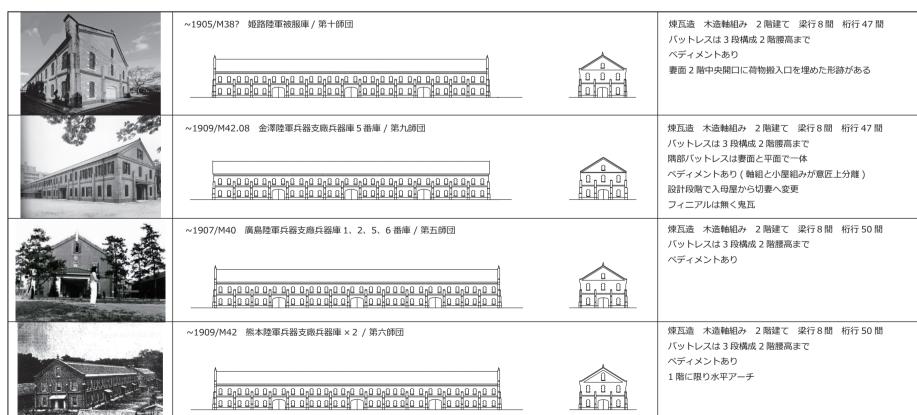


図13 各地の兵器廠兵器格納庫

○まとめと今後の方針

旧軍施設の研究は,およそ75年にわたって大陸を含む広大な領域を支配する実行力となった日本軍の活動を知るうえで,無くて はならない視点であると考える。特に陸軍において、その活動を具体的に支えていたのは、戦役ごとに改良が施されながら全国共 通の兵営施設を規定してゆく,陸軍省経理局建築課による標準設計の存在であった。旧日本陸軍の建築施設の研究では,兵科ごと の兵営の展開と兵営内の個別の建築物についての標準設計に注目することが,引き続き有効であると考える。資料としては『建築 要領草案』や『範式』, その他文書類が残されており, 幾つかの資料は現存事例との比定も可能である。 今後とも,旧陸軍20兵営と旧海軍4港湾の施設復元および個々の建築物の分析調査を進めていき,わが国近代化の過程で存在し続

けた巨大組織の特異な設計体制を明らかにし,近代建築史や地域史,防衛施設史などの分野に旧軍施設の包括的な情報を提供したい。